

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000660		
法人名	特定非営利活動法人 すばる		
事業所名	グループホーム 夢		
所在地	北見市留辺薬町旭1区243番地8		
自己評価作成日	令和5年2月24日	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道39号線沿い、市街地の西側に位置しています。近隣にレストランやコンビニ、スーパーやドラッグストアがあり買い物や外食などに活用しています。地域環境にも慣れ、地域に溶け込んでいます。年間行事として春はお花見と称し桜を見ながら食事を楽しんだり、夏はかき氷や焼肉の企画をして夏気分を楽しみ、秋は季節の食材を使用したバイキングメニューを提供し生まれ、冬はクリスマス会など四季折々の行事を楽しまれています。特に今年開催した味覚祭ではバイキングメニューを用意し、フルート演奏やミニゲームを楽しまれ、姉妹施設のすみれより職員や利用者様が参加され、交流を深めることもできました。外国人技能実習生の受け入れも開始したことで、異国文化交流も日々の会話やレクリエーションに取り入れて外国人人材が定着できるように取り組んでいきます。今後も利用者様のできることに着目し、お互いを支え合いながら穏やかに生活が送れるように目指してまいります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000660-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に北見市留辺薬町に1ユニットで開設されているグループホーム「夢」は「長い人生の主役です自分らしくゆっくりとのんびりと」の理念を基本に管理者やケアマネージャーは入居前の生活の延長上の日常を第一に考えて職員に本人本位であることを優先するように指導しています。生活維持能力の向上・改善を図る目的でラジオ体操やYouTubeの体操、クイズ、カルタ、歌レクを行っています。お願い事や日々のお手伝いでは感謝の一言を掛けることで利用者から何か手伝うことはないか等と率先して行う利用者が増えてきて意欲や生きがいが広がっています。職員の子どものふれあいを通して利用者は家族としての場所があることで安心して過ごす事が出来ています。また、コロナウイルス感染症の中でも人数制限や時間を決めて居室での面会を行ったり、家族の協力の基で墓参りや外食、買い物に出掛け触れ合った利用者もおり、果敢に利用者のための事業所のあり方を追及しています。今年に入り新たに3名の新人が採用されており、新人の気づきを基に利用者の状況把握を振り返り共に歩もうと取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を提示し、管理者を初め、職員に共有し実践に努めている。	理事長が開設当初作成した理念を掲示し、職員に振り返りを促しています。尚、パンフレットの記載やホームページに運営理念を載せています。管理者は、時間を気にせず利用者に合わせてゆったりと支援するよう職員に指導しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により町内会の行事などには参加できない状態が続いている。緩和され次第順次参加予定を考えている。	コロナ禍で自治会の行事が中止となっており、感染予防のため当事業所のイベントも事業所内で行っています。自治会長とは連絡推進会議の出席を得て情報を交換しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談などに対応し、地元高校への求人票配布し、就職相談にも応じるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者の状況やホーム内の環境について報告し今後のサービス向上のため意見を伺っている。	奇数月で、地域包括センター、市職員、自治会長・地域住民、民生委員の参加を得て利用者の現状、ヒヤリハット・事故報告、行事等の報告し意見交換を行いサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保健福祉課と連携を取り、必要に応じて相談ができる関係作りを努めている。	運営推進会議の出席を得ており、9月の運営推進会議には、失跡などに関してSOSネットワークの活用が指導があり、ヒヤリハット・事故防止に努めています。また、分からない事は直接相談が出来るなど良好な関係構築がなされています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針の作成や委員会を構成し会議の場で研修を行い身体拘束への理解に努めている。尚、玄関は防犯上の観点から施錠を行っている。	職員は「高齢者虐待において適切なアセスメント・不適切ケアの結びつき」の研修や高齢者虐待防止などの動画を活用し管理者が細かく説明する方法をとり、職員に認知症における虐待の弊害・リスクや回避を指導し、職員の意見・感想を把握しています。身体拘束ゼロを目指し、職員は先々の予測することに対してどう思考し行動すればリスク回避が出来るのかを指導しています。	運営推進会議では、身体拘束は無いとの記載報告がありますが、委員会会議録が無いため詳細を把握する事が出来ないため書類の整備を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修会を開き、不適切ケアが起きない環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後は必要に応じて職員会議時に研修を行っていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約または改定の際はしっかりと説明し不安な点や疑問点を伺い、都度説明し理解納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望はその都度繁栄できるように努め面会時に意見を伺い、ケアプラン等に反映できるように努めている。	電話での連絡や面会禁止・面会制限を経て今年からは居室で面会が出来るようになり、来所時などで要望を聞いています。面会が再開され利用者や家族の笑顔と安心に繋がっています。お便りを希望する家族もおり今後、検討する予定となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月の会議の場で疑問になっていることを聞き出すよう努めている。	毎月1回の職員会議を実施しており、フランクに話しやすい雰囲気作りを心掛け、職員からの提案や意見は否定せず試行し結果を検証し次に向けた取り組みを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は適した職場環境整備に努めている。また、急な勤務変更や交代などを無理強いないで、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとり仕事について疑問がある場合は都度一緒に考え実践できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加して交流が図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかり傾聴して本人の気持ちに近づけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な点や疑問点を説明し、思いを聞き出し解決策などを話し合うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを尊重してケアを行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はそれぞれ工夫して利用者との関係性を構築できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はそれぞれ工夫して利用者家族との関係性を構築できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が落ち着いた状態で面会などを開始し地域交流へと繋げていきたい。	お墓参りや買い物などは家族の支援を得て実施しており、外食は利用者の楽しい一時となっています。新聞購読や希望の化粧品購入、お正月等にはスマホを使い家族との会話を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が仲介してレクリエーションや体操への参加を促し、リビングで一緒に過ごし会話が弾むように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、気兼ねなく相談できるように声掛けなどを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに寄り添った支援やケアプランの作成に努めている。	利用者がどのように過ごしたいのかを日頃の会話を通して把握しています。制限・束縛のイメージを持つ利用者の考えを払拭するように、本人が臨む生活を保障し居場所作りを心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境を意識してケアプラン作成に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や精神面を考慮してできる範囲で家事支援などの取り組みを実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議時にモニタリングを行い、それぞれの意見を反映し実践している。	短期見直しを6ヶ月毎に行い、職員会議の中で、モニタリング・カンファレンスを行い本人の意向や利用者の日々の生活状態・改善に繋がるように介護計画を作成しています。チェック表など用いて職員が日々記載することで介護計画に反映出来るような仕組みを検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやケア記録を参照して実践へ反映できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り時の宿泊など柔軟な対応やサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後、どのような地域資源があるのかここで把握できるように努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得を得て月1回の往診、かかりつけ医師には必要に応じて往診していただけるように環境整備を行っている。	希望する医療機関の受診を事業所で行う他、月1回から2回の医療機関の往診、適時歯科往診を支援しています。また、月2回の訪問看護(24時間オンコール)やICTで一元化を図り日々の利用者の健康管理を行い家族の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月2回の訪問看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	その都度必要に応じて情報提供や意見交換を行うように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で状態把握に努め看取りの方針を提示スムーズにケアが行えるように努めている。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」「ターミナルケアの指針」により説明し同意を得ています。終末期は医師から利用者家族に説明があり、本人・家族の意向により取り進められます。事業所では出来るだけ意向に沿った支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	指示系統をしっかりとおり必ず管理者又は責任者へ連絡が入り事故初期対応に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実践し災害に備えるように意識して行動できるように努めている。	年2回の火災避難訓練は自主訓練の夜間想定で初期消火・利用者避難誘導、通報システムの確認等を実施し、反省・改善点について話し合いを行っています。停電対応では、ポータブルストーブや水、お粥、缶詰等を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの保護を行い、失礼にならないような言葉使いを意識している。	呼び掛けに反応する呼び方で、家族に了承を得ながら呼んでいます。トイレなどは全体に呼びかけ行動を促したり、個々の利用者に寄り添い誘導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができることは伺い、思いが反映できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がゆっくりできるように本人のペースに合わせて支援できるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に季節に応じた衣類の選択や提案を行うなど身だしなみには意識して支援に努めている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を意識した食事やおやつを提供を行い、利用者と職員と一緒に準備や食事をしている。	利用者の嗜好や気温等を考慮し、1週間ごとに献立を立て、その日の勤務で役割分担を決めて提供しています。誕生日や行事食ではちらし寿司、ケーキやデザートのパイキングを行ったり、目の前で手作り餃子作ったり・ジギスカンなど利用者の喜びとなるように取り組んでいます。夏はかき氷を作ったり差し入れの野菜や果物などが食卓に上ることもあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録を参照し水分提供や栄養バランスを整える献立作りを意識している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり本人の状態に応じて口腔ケアを実践している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しケアを行っている。	昼夜のトイレでの排泄を基本とし、排泄パターンを把握し誘導の支援を行っていますが、自発的に行かれる利用者もいます。主にリハパンで過ごされており、昼夜問わずオムツ対応の利用者もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が取れるように食材の選定や補助食品の提供を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、職員との会話を楽めるように個々の嗜好に沿った入浴支援ができるようにしています。	週2～3回を基本に、入浴剤を使用しながらゆったりと入浴を楽しめるように心掛けています。入浴介助は主に1対1ですが、必要に応じ2人介助の方もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度など睡眠時の環境整備に努め、安眠できるように静かに過ごせるように努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を共有し内服薬の理解に努め服薬支援を実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクや回想法などを活用して楽しんでレクリエーション参加できるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が落ち着き次第、順次対応を予定している。	天気の良い日には事業所の周りを散歩しています。受診の際に買い物や外食に出掛けています。レクリエーションは毎日時間を決め利用者が楽しめるように工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望を聞いて買い物支援の代行などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に対応して、必要に応じて職員が仲介して電話連絡ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔な環境作りを意識しており、リビングなどは行事によって装飾を行い季節感や生活感を提供している。	共同空間は広々としており、食事する場所と寛げる空間を区別してソファやテーブル・テレビが配置され、テレビ視聴や談笑などを楽しまれています。季節やイベントの飾りつけは職員が行い飾る箇所を決めて利用者が見て楽しめるように取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと食事スペースを分け利用者同士で過ごせる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い入れのある家具を使用したり今までの生活環境に近づける努力をしている。また、表札を使用し自分の部屋の把握ができるように工夫している。	居室にはベットと収納し易いクローゼットを配置しており、使い慣れた棚や座椅子、テーブルなどを持ち込み、家族・孫の写真や縫いぐるみ、喋る人形、芸能人の写真などを飾りその人らしい生活環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを見極めて家事支援など見守りを行い安全に配慮して支援に努めている。		